

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4310710613		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	グループホームくすのき		
所在地	熊本県天草市楠浦町288番地9		
自己評価作成日	平成27年9月8日	評価結果市町村受理日	平成27年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成27年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の「ここがいい」「ここに来て良かった」の言葉が聞けるひと時が、職員一体となり喜びの時です。理念(安らぎを与える私の我が家)に基づき入所者様一人一人の安らぐ生活を考え日々向上心を忘れずケアに取り組んでいます。年間行事を通して、ご家族や地域住民の方々との交流を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者に「ここに来て良かった!」と、思ってもらえるような関りをしたいと語る管理者の言葉は、そのまま職員の思いでもあり、終日笑いの絶えないホームを形成している。その賑やかな話し声はベランダから道行く者にも伝わり、ホームの生活ぶりが窺える。職員自慢の朝の紙芝居は、入居者の年齢を考慮し、馴染みの方言を交えながらも言葉を選び、退屈しない話術に実に楽しい時間となっている。認知症デイを併設し、3名の通所者と常に行動を一緒にしながら共に泣き笑いするリビングは家族だんらんを思わせる風景である。本人や家族の中にはホームで最終を迎えたいと希望する方も多く、職員はこれまでの事例を通し出来る限りの対応をしていくと語っており、日々の支援の延長として最期まで関りたいという熱い気持ちが伝わってくる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様には、家族と同様に安心して暮らしたいという思いがあり、いつでも目につく玄関先に安らぎを与える私の我が家の理念を捧げ皆で共有しながら日々のケアに努めている。	理念である「安らぎを与える私の我が家」は、入居者にとって第二の我が家と思ってもらえる存在になりたいとの願いが込められている。ホームの取り組みは、地域交流の機会に外部に発信され、年度当初には家族を招いた花見の席で、前年度の運営内容と新年度に向けたホームの意気込みを伝達している。母体医院を通じ古くからの馴染みの関係が入居者の中にもできており、安心して過ごされている様子に理念の浸透ぶりが窺える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事等の参加に、地域の皆様と一緒にボランティア活動をしたり、津波・大雨災害時避難訓練に参加したり、天草支援学校との交流会、又は月1回のボランティアの受け入れも出来ている。	隣接する漁村センターやゲートボール場は、地域住民の集いの場であり、入居者が散歩中に言葉を交わしたり、カラオケ会に参加するなど交流の機会として定着している。年2回の清掃活動には職員が参加し、入居者が楽しみにしている秋祭りなどの地域行事には、皆で出かけている。海に面した当地域では、定期的に高潮などを想定した避難訓練が実施されており、地元と共同して災害対策に臨んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室を年一回開催し、認知症の方の理解や介護方法等の勉強を地域の方々や家族の方にも参加してもらい行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表や地域の方々、又、地域包括支援センター職員に参加してもらいホームの問題や活動等を報告し、話し合いながら意見を出していただきサービスの向上や運営に活かしている。	包括職員や地域・家族・入居者の代表者が参加し、定期開催が実現している。認知症デイサービスを併設するホームは利用者3名も常に行動を共にし、ホームでの日常は詳細に報告されている。2ヶ月ごとの運営内容は市共通の記録様式にてわかりやすく紹介され、参加者からの意見や要望と共に、評価の声を議事録に残し、玄関先にも開示している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告をしている。情報提供や会議参加の依頼があれば必要に応じ提供し参加したりしている。	管理者は運営推進会議の資料を行政へ提出する際、内容を口頭で伝えると共に、ホームの現状を共有し、意見や助言を求めている。行政主催の研修には、内容に応じてできるだけ職員に参加の機会を作り、人材育成に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の排除の方針を挙げ、又、定期的な勉強会を行う事で身体拘束についての理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束について方針を掲げ、拘束のない安定した支援を目指しながら職員の認識を更に深めるよう、会議では担当者が資料作りに関わり、外部研修での内容は復講により全員で共有している。現在4名の方にセンサーマットが使用されているが、家族の同意を得たうえで、プランの中にも盛り込み、様子観察を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や外部研修に参加し虐待防止についての理解を深めている。日々虐待に対し注意を払い利用者の自宅や家族の対応等、職員内で情報を提供し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などには参加しているが、活用できるまでの知識や教養はあまりない気がします。もっと勉強する機会を多く設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される際や料金の改正があった際は、十分に本人と家族に契約書や重要事項説明書などを用いて説明し、又、意見等を聞きながら納得してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会を年二回開き、家族アンケート等での意見や要望をいただいたり、面会に来所された時など家族や利用者からその都度、要望・意見等を聞くように心掛けている。	入居者の目線で、ゆっくりと関わりながら意見などを確認している。家族については年二回開催される家族交流会の場や、来訪時に入居者の近況を伝えながら意見や要望を聞き取っている。また、訪れやすいホームであることが重要であり、職員はチームワークをもって自身の特技や専門性を生かしながら日々の業務にあたっている。家族会の職員出し物では、入居者・家族を退屈させず笑ってもらえるよう、二人羽織やひょっとこ踊りが披露され、和やかな時間となりさらに信頼関係も深まったようである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の勉強会を開き皆の意見や提案を聞く機会を設け、意見等が出たらその都度皆で話し合い対応している。	全職員が参加して月一回開催される勉強会を中心に意見や提案を確認する他、統括師長による面談が行われている。管理者は日々師長への相談やアドバイスを受けながら、職員の働きやすい職場環境に繋げる努力を行っている。また、出された意見などは法人代表者へ報告し、適宜必要な改善が図られている。昨今、福祉の現場では求人に苦慮しているという現状であるが、当ホームに至っては人材確保がスムーズに行われており、職場環境の良さを表し、入居者のサービスにも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い職員一人一人の意見を聞く機会が設けてある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修等に声掛けを行い参加する様にしているが、思うように働きながらトレーニングをしているという点では難しい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の連絡会や忘年会に参加し意見交換や交流を図る機会を設けている。又、他事業所からの相談にもその都度応じている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される際は、十分なアセスメントと、意見や要望を聞きカンファレンス等を行い、安心して利用していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される際には、家族の要望等を聞き、十分な説明とアセスメントを行い不安をなくす様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から相談があった場合には、主治医、師長、担当ケアマネを交え話し合い、本人に合ったサービスを検討し提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のケアの中で笑顔で接することを心掛けながら入所者の意向を感じ取り尊重し合える関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望を家族の方へ伝えたり、又、家族の要望に沿って支援している。二ヶ月に一回のたよりを発し、遠方の方にも状況報告をしている。面会に足が遠いご家族に対しても電話連絡し繋がりを大切にしていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事や隣接のデイケアセンターでの行事がある場合には、積極的に声掛けを行い参加していただいたり、地域のお店を利用する事で交流を持って頂いている。	家族や知人など訪れやすい環境に努めており、来訪者の多いホームである。また、母体医院へ入院となっても、車いすで職員と一緒にホームを訪れるなど法人全体でこれまでの入居者・職員との関係を継続させている。地域に伝わるまつりの見学をはじめ、通っていた商店に買い物に出かけるなど、馴染みの生活や交流を大切に支援している。生まれ育った青い海を臨みながら、入居者に穏やかな時間が提供されている。	歌やクレパス画など趣味や特技が変わらず支援されており、今後も個々のこだわりなども把握しながら取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方、気の合う方の同席に努めており、活動時や日々の会話で職員が聞き入り孤立される方がいないように、入所者様同士の良い関係が持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も相談ごとや悩みがある場合には気楽に相談できるような声掛けを行ったり、入院にて終了された場合にも、面会したり電話で様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や情報等から、希望や意向の把握に努め、家族に説明をしたり、職員間で話し合い、行事に取り入れ一人一人の希望に添える様にしている。	職員は、入居者の話をじっくり聞き、“聞き手に回る介護”を実践している。「以前好きだった物が今も好きなのか?」「大事にしているものが今も変わらないのか?」入居後の生活に寄り添い、気づいた点は常に職員で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話を聞いたり、アセスメントを見たり、職員間で共有したりして一人一人のサービス利用経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活状態や心身状態の観察を行い、変化に気づきがある場合には職員間で話し合い、カンファレンス等を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書作成する際には、本人や家族の要望を聞き、関係者と十分に話し合い現状に応じたより良い介護計画作成をしている。	職員は入居者のホームでのより良い暮らしに焦点をあて本人の願いを聞き取り、様々な機会に家族の意向を収集している。毎月のケア会議には、全員が参加して多面から入居者を見つめ意見を出し合い、プラン作成に関わっている。プランは半年を目途に評価をしているが、必要と判断した場合には早め実施し、現状に沿って対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の一般状態を観察を行い、気づきや状態等を個人記録や申し送りノートに記録し、職員間で情報共有し、変化時にはカンファレンスを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医やケアマネジャー、師長、職員間で連絡し合い、その時の状況に合わせたサービス提供が出来るようになっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の方や、地域包括センター、入所者の家族に方に参加していただき意見交換を行っている。又、消防訓練や災害時には消防団や区長さん達と連携し安全な避難が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医院をかかりつけ医としており、月2回の定期受診や急変時対応等、医療との連携が出来ている。他の医療受診の際には家族の方に連絡し同行していただく様に支援している。	これまで母体医院をかかりつけ医とされていた方も多く、夜間対応など面から、全員が隣接の母体医院で月2回の定期受診や緊急時対応支援が行われている。他の医療機関については家族の協力を得ながら適切な受診を支援している。また、2週間ごとの歯科往診や日々の口腔ケアの徹底からも入居者の健康をサポートしている。	入居者の使用する歯ブラシは家族が準備される方もおられるようである。今後は歯科医から歯ブラシの選択についてもアドバイスを受けることで、より良い口腔ケアに繋がるものと思われる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時には、常に24時間の観察、相談をし、急変時には素早く報告し、指示をもらい対応出来ている。二名の看護師が常勤し、病院受信後も看護師からの適切なアドバイスをもらい支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーにも詳しく書いているが、入退院時には、医療機関と詳しく情報交換している。入院時には、お見舞いに行き、欲しい物や不敏な事を聞き、病院関係者へ伝え、安心して治療に専念出来るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態重度化した場合、主治医や家族を交えて看取りを行うか、医療機関に入院するかを話し合っている。終末期には、看護師と二名体制で夜勤を行い母体の病棟看護師とも情報交換し話し合いながら、ケアを統一して支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期支援について指針をもとにホームの方針を説明し、必要な時点で本人の思いをくみ取りながら家族と話し合いを行っている。終末期支援については職員のメンタル面にも配慮し、夜間の勤務体制や医師を含めた母体医院と連携して支える体制が整っている。	入居者にとって昔馴染みの法人医師2名の存在は家族、職員にとっても心強いものになっている。今後もご縁のあった方々に最良の時間を提供するホームとしての取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月定期的に勉強会を行い、急変時や事故時の初期対応などマニュアルに沿った対応を行っている。また、昼間や夜間まどの緊急対応時のマニュアルも作成し、目の付く場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団や区長さんと年二回の実践的な避難訓練をホームで行い、又、地域住民の皆さんと一緒に避難訓練に参加したり、災害時避難マニュアルを作成・掲示し、母体に非常食を保管している。	年2回(6・11月)昼夜を想定した避難訓練や地域住民との自然災害訓練、避難場所確認を行い有事に備えている。消防署も参加した訓練後は、職員のチームワークの良い誘導についての評価や、避難時はハンカチなどを口に当て背を低くして行うなどの指導を受け次回に活かすことが共有されている。災害備蓄については、乾パンや粥・水・缶詰などが母体法人で準備され、そのリストがホーム内廊下に掲示されている。	火災においてはまずは火を出さないことが重要である。今後はホーム周りや共用空間・居室のコンセントの埃などの項目をまとめたチェック表を活用した安全点検に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室の際は声を掛け、もしくはノックを行い、丁寧な声掛けに心掛けている。失禁や食べこぼしなど、他者にわからないようにさりげなく対応しプライバシーの尊重に努めている	入居者を尊重した支援やプライバシーの確保については、研修会に限らず日々の業務の中で共有を図っている。呼称は苗字や同姓の場合は下の名前にさん付けで対応している。排泄や食事支援では特に本人や周りにも不快にならないような対応を行っている。入浴では同性介助への希望に応じているが、力強い男性職員のサポートの希望などもあり確認しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄行為の有無や入浴など、必ず本人の意思を確認し、拒否される時は無理に強要せず、本人の自己決定が出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調をよく観察し、入浴や体操も本人の訴えに臨機応変に対応できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝洗面所へ誘導し、身なりを整えている。食べこぼしで衣服が汚れたりしたら着替えの声掛けし、入浴時は、何を着たいかを一緒に本人に相談しながら衣類準備をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	煮物やお刺身を週一程度で提供し、昼食は必ず職員が検食を行い、一緒に食べている。また、個々の能力に応じ、材料の下ごしらえを入居者の方と一緒にしている。本人が食べやすいよう箸やスプーンなど、能力に応じ対応している。	職員は肉・魚のバランス、野菜を多く、旬の食材に配慮した献立を作成している。買い出しは地域商店やスーパーをはじめ、鮮魚店から届けられる刺身は好評である。入居者は下ごしらえや下膳などできる事に関わり、食事は職員も一緒に検食者（昼食に一名）や持参した弁当を広げている。「今日も美味しいかなあ～！」「私のみかんやろか～！？」と職員への感謝や労わりの言葉をかけられる姿が印象的であった。	この夏のソーメン流しは職員手作りの竹を使い、入居者に大好評であったようである。入居者の喜びに応え次回は1度だけでなく再度、手作り竹が活躍できる機会を設けられることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者各自の食事量を記録し、個々にあった食事量や好食品の提供をしている。体調不良等で食事摂取量が少ないときはカンファレスを行い主治医に相談し総合栄養食（ラコール）の提供をしたりこまめな水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり身体レベルに合わせ、一部介助、見守り、全介助と配慮し口腔ケアを充実している。入れ歯はポリデント洗浄週一回行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本はオムツの使用はせずにリハビリパンツを使用している。利用者の行動やしぐさの観察を行い、排泄パターンを把握し、声掛けしながらトイレ誘導を行い、失敗の少ない排泄に向け、自立支援に心掛けている。	それぞれの排泄パターンに応じ、表情や仕草などから察知しプライバシーにも配慮しながら誘導を行っている。また、自立の方の継続にも努め、使用する排泄用品や支援については職員間で最良の方法を検討している。現在はオムツ使用の方はおられず、リハビリパンツや布下を使用されている。居室にトイレが設置されており、入居者は自室のトイレを安心して使われており、職員も常に清潔を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の排便チェックを行い、日々の食べ物の工夫や、適度の運動を行い便秘予防に努めている。又、排便状態に応じ、牛乳を提供したり医師に相談し排便コントロールで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後と湯を張り希望時はいつでも入浴できるように準備している。又、利用者全体のバランスを考えて順次入浴していただいている。一日置きの入浴。体調不良時等は清拭にて対応している。	採光の良い浴室で週3～4回の入浴支援が実施されている。苦手な方も1日おきには入ってもらえるよう、職員は誘導や声かけを工夫している。また、足浴や清拭、背中流しを長めなど個々の希望や状況に応じ取り組んでいる。背中流しを長めに行うことで「気持ちよか～！」と発せられる方もおられるようである。また、「〇〇さん、お風呂によろしいですか～？」と、優しい職員の声かけの場面も確認された。	湯船に浸かることで入居者はホッとされると管理者は語っている。今後も入居者の思いに応える支援となるよう、楽しい入浴について検討頂き、全入居者から「気持ちよか～！」を引き出していだきたい。菖蒲や柚子湯をはじめ、ヒノキや薬草など変わり湯も好評を得るものと思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動パターンを把握し生活リズムを整えている。本人の訴えに応じて休憩をとってもらっている。又、入眠時の声掛けは必ず行い安眠されるよう促しをおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳を保管しいつでも見れるようにしている。薬に対する疑問は主治医・薬剤師に相談し助言を受けている。又、誤薬がないように名前等を声かけ確認しながら服薬支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々楽しく過ごせる様、一人ひとりの好きな事、やりたい事、やっていた事など本人や家族より教えてもらい、希望に合った活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人、家族の希望に応じ、外出、散歩など対応し支援する。交流として、地域の行事、祭り等、地域の方々、家族の協力を得て参加している。	ホーム近隣はゆっくり散歩や散策ができる環境であり、職員は天候の良い日は希望も確認しながら外出を行っている。また、地元の祭り見学や隣接したゲートボール場に集う方々との会話など、地域の人々との交流に繋がる外出を大切にしている。家族との外食を楽しまれる方、花見学やぶどう刈りなど季節の外出支援についても聞き取りや写真などから確認された。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本とし、お金は事業所で管理しているが、本人の希望で、自分で管理したいと希望あれば所持してもらっている。物品購入などの希望時は、その都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話希望あれば都度対応している。また家族や友人など外からの電話や手紙にも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場には、花や季節感を出した絵や、写真など飾ったり、整理整頓を心掛け、居心地の良い雰囲気作りを行っている。	明るいきりびんぐホールには目の前の海からの潮の香りが届き、担当職員によるレクリエーションのリードに入居者の笑い声が響いている。段上がりの畳の間は、食後の休憩や洗濯物たたみなど有意義に活用されている。玄関先に植えられた花苗やホーム内の掲示物、隣家の庭先の樹木からも季節を感じることができる。自然環境と共に職員の活気や優しい支援が居心地のよい空間を作っている。	経年と共に物品の数も増えてくると思われる。今後は定期的に破損や掲示物の傷みなどの確認に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場には、ゆっくり和める畳の間や、気の合う利用者同士でテーブルを囲んだり、景色を眺められるデッキなど、くつろげる場を設けている。また、季節に応じた飾り付けに心掛けしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、利用者の馴染みの物などで居室を飾り、また、必要な物など希望があれば、家族へ連絡し持って来て頂くなど対応している。	入居時に家族の参考になるよう、希望する家具や備品の持ち込み、家庭と同じよう自由な服装で過ごせることもパンフレットに記している。トイレが設置された居室は、入居者のプライベートな空間として居心地良く過ごせるよう、換気や掃除が小まめに行われている。また、本人の希望する物品などがあれば家族へ連絡を行い、安心して過ごせるように配慮している。	持ち込み品の多さが居心地の良さに繋がるものではないが、ゆとりのある空間のためものさみしい居室も見られた。今後は再度家族へ馴染みの品の必要性を伝えたり、職員のアイデアを生かした居室作りに期待したい。まずはカレンダーの掲示も一案と思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体を安全に過ごせる様、手摺りなど設置しバリアフリー設計。身体レベルに応じ、夜間はポータブルトイレを使用してもらうなど職員間でカンファレンスを行い、見守りの強化で安全確保。利用者個々の出来る事などは大切に尊重し支援する。		